

寝屋川市国際交流協会 30 周年記念スピーチコンテストに参加して

茅ヶ崎プレ初級クラス

上原久美（高1）

高校に入学して、5月よりスタートした茅ヶ崎コースの北川先生より、寝屋川市国際交流協会 30 周年スピーチコンテストのことを聞きました。そしてよい経験になるし、英語力を上げるチャンスになると勧められました。

けれども原稿提出まで日がなく、定期テスト、勉強合宿と日程がつかっていました。クラブの朝練、習い事、学校の宿題。北川先生からは「上原さんのスケジュールは売れっ子のアイドル並みやね」と言われてしまいました。

そんな中、私は「今の自分にはどれくらいの英語力があるか試してみたい、もう2度とこんなチャンスはないかもしれない」と思い参加することに決めました。

テーマは国際社会。まず、期限までにスピーチ作りです。今まで国際社会に関係した経験もあまりなく、ピンときませんでした。私は英語の教科書で習った 'Let's change the world' のことを思い出しました。

1992年のリオで開催された地球サミットで、12歳のセバン・スズキが環境保護を訴える有名なスピーチをしたことを取り上げたものでした。彼女は自分で航空運賃を集め、友達と一緒に参加した地球サミット。私が12歳の時は一体何をしていたんだろう。親や先生の言うことを理解できず、自分のことではいいいっばいでした。そんな時セバンは動物や未来の子供達のことを考えて行動を起こしたなんて。

これをスピーチにして、みんなが協力して環境を守っていこうと訴えることにしました。そして教科書のセバンのスピーチや本文を利用して、先生と相談しながら一緒にスピーチを作りました。

北川先生からは、単語の発音の仕方、スピーチ中の視線、姿勢、ジェスチャーをどうするかまで、たくさんアドバイスがありました。本当に伝えたい大切なことは、ちょっと間を置いてからゆっくり言うとか。

予選が終わった後、自分が1番できなかったと感じ落ち込みました。もう本選を辞退しようかとさえ考えましたが、先生や予選を見に来てくれた母から励まされ、できることをできるだけやってみようと思いを直しました。

思いがけず3位に入賞し、参加したことは私にとって本当に大きなチャンスだったと感じました。ありがとうございました。